

動物実験に関する検証結果報告書

名古屋市立大学

動物実験に関する外部検証事業

(国立大学法人動物実験施設協議会・公私立大学実験動物施設協議会)

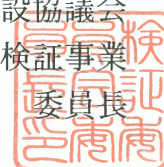
平成 29 年 3 月

平成 29 年 3 月 27 日

名古屋市立大学
学長 郡 健二郎 殿

貴機関における動物実験の実施体制に関して、提出された自己点検・評価報告書に対する検証結果を通知します。

国立大学法人動物実験施設協議会・公私立大学実験動物施設協議会
動物実験に関する外部検証事業
検証委員会 委員長



対象機関：名古屋市立大学
申請年月日：平成 28 年 7 月 11 日
訪問調査年月日：平成 28 年 11 月 25 日
調査員：山本 博（富山大学）
越本 知大（宮崎大学）
長尾 静子（藤田保険衛生大学）

検証の総評

名古屋市立大学は明治 17 年設置の名古屋薬学校と昭和 18 年設置の名古屋市立女子高等医学専門学校を源とする 6 学部 7 大学院研究科からなる公立総合大学である。医学研究科、薬学研究科およびシステム自然科学研究科の 3 研究科においてマウス、ラット、ウサギ、モルモット、マーモセットおよびカエル等を対象に、動物実験が実施されている。「名古屋市立大学動物実験規程」の下で、全学委員会および 3 部局の動物実験委員会が組織され、動物実験計画の審査、承認、結果報告、教育訓練、自己点検・評価、情報公開等が文部科学省の動物実験基本指針（以下「基本指針」とする）に則しておおむね適正に実施されている。一方、機関の長の責務の明確化、部局動物実験委員会における委員の 3 区分の明確化については、改善の余地が認められるため早急に基本指針に則して対応されたい。学内の合計 13 か所の飼養保管施設のうち、主要飼養保管施設は医学研究科附属の実験動物研究教育センターおよび薬学研究科附属実験動物飼育施設であり、基本指針および環境省の実験動物飼養保管基準（以下「飼養保管基準」とする）に則して実験動物の飼養保管

および動物実験が適正に行われている。しかし研究室単位で管理する施設の一部には整備の必要性がみられる部分もあり、統合等を含めて引き続き検討し、さらなる充実を図られたい。動物実験委員会の審査記録類が適切に保存されていること、動物実験結果報告書の提出率が過去 3 年間 100%であること、平成 22 年度から継続して多くの情報が積極的に公開されていることは高く評価される。以上の点を総合的に判断すると、名古屋市立大学における動物実験は、おおむね適正に管理・実施されている。飼養保管施設のさらなる整備・維持管理に努め、今後とも良好な体制を維持し、適正な動物実験の実施が継続されることを期待する。

検証結果

I. 規程及び体制等の整備状況

1. 機関内規程

1) 機関による自己点検・評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する機関内規程が定められている。 <input type="checkbox"/> 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 機関内規程が定められていない。
2) 自己点検・評価の妥当性 「名古屋市立大学動物実験規程」が定められており、その内容は基本指針に則したものである。よって、自己点検・評価結果は、妥当である。
3) 検証の結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する機関内規程が定められている。 <input type="checkbox"/> 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 機関内規程が定められていない。
4) 改善に向けた意見 学長責務や部局委員会の位置付けをより明確にするなど、細部について再確認されたい。

2. 動物実験委員会

1) 機関による自己点検・評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会は置かれているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会は置かれていない。
2) 自己点検・評価の妥当性 「名古屋市立大学動物実験委員会規程」において基本指針に則した委員会の役割や委員構成等が定められている。8名の委員により構成される全学動物実験委員会が学長の下で組織されており、現在の委員構成は基本指針が求める3区分の要件を網羅している。また、部局の動物実験委員会が構成され、各部局の動物実験計画を一次審査する仕組みとなっている。よって、自己点検・評価結果は、妥当である。
3) 検証の結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会は置かれているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会は置かれていない。

4) 改善に向けた意見

「名古屋市立大学動物実験委員会規程」等において、基本指針に則した3区分の委員構成を明文化して確実に網羅されるよう推奨する。また、部局委員会の構成と役割、部局間の情報共有、さらに全学委員会や理事長との関係性についても内規等で明確化し、委員会機能のさらなる充実に努められたい。

3. 動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。
- 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験の実施体制が定められていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

「名古屋市立大学動物実験規程」および「名古屋市立大学動物実験規程細則」のもとで、動物実験計画の立案、審査、承認、結果報告等の手続きが規定されており、これらの手続きに必要な各種様式も整備されている。よって、自己点検・評価結果は、妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。
- 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験の実施体制が定められていない。

4) 改善に向けた意見

部局長宛となっている動物実験計画書等、関連書式の提出先の修正や、一部の書式で不明瞭な承認欄を明確にすることを検討され、理事長が確実にこれらの書類を確認して可否判断していることを明確化されたい。

4. 安全管理を要する動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- 該当する動物実験の実施体制が定められている。
- 該当する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 該当する動物実験の実施体制が定められていない。
- 該当する動物実験は、行われていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

「名古屋市立大学遺伝子組換え実験等安全管理規程」「名古屋市立大学研究用病原性微生物等安全管理規程」「放射線障害の予防に関する規程」等に注意を要する動物実験に関連する規程等が定められ、実施体制が整備されている。一方、発がん物質等危険物質を用いた動物実験に関

する規程は整備中であり、機関としても早急な対応の必要性を認識している。よって、自己点検・評価結果は、妥当である。

3) 検証の結果

- 該当する動物実験の実施体制が定められている。
- 該当する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 該当する動物実験の実施体制が定められていない。
- 該当する動物実験は、行われていない。

4) 改善に向けた意見

発がん物質等危険物質を用いた動物実験にかかわる規程を早急に整備し、施行されたい。

5. 実験動物の飼養保管の体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

大学内のすべての飼養保管施設において管理者および実験動物管理者が定められ、基本的な管理体制が整備されている。よって、自己点検・評価結果は、妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

理事長が施設等の適正性を確認していることを明確化するため、施設等の設置等に関する書式の提出先、承認欄の追加について検討されたい。

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

特になし。

II. 実施状況

1. 動物実験委員会

1) 機関による自己点検・評価結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に機能している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性
全学動物実験委員会および各部局の動物実験委員会が設置され、全学動物実験委員会および各部局の動物実験委員会により動物実験計画の審査、実施結果に対する助言、飼養保管施設や実験室の視察、教育訓練、自己点検・評価等、基本指針や機関内規程に定められた動物実験委員会の活動が適正に実施され、議事録も保管されている。よって、自己点検・評価結果は、妥当である。
3) 検証の結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に機能している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
4) 改善に向けた意見
委員会での審議事項が最終的に理事長に報告されていることがわかるよう確実に記録を残されたい。

2. 動物実験の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性
基本指針や機関内規程に則して動物実験計画の審査が行われ、平成 27 年度には 228 件の計画が承認された。実施結果報告書の提出率は 100%である。よって、自己点検・評価結果は、妥当である。
3) 検証の結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

特になし。

3. 安全管理を要する動物実験の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 該当する動物実験が適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。
- 該当する動物実験は行われていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

感染実験、放射線同位元素・放射線使用実験、遺伝子組換え動物実験は規程に基づき実施されている。一方、発がん物質等危険物質を用いた動物実験については、関連規定は整備中であるが、実際には適正に実施されている。よって、自己点検・評価結果は、妥当である。

3) 検証の結果

- 該当する動物実験が適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。
- 該当する動物実験は行われていない。

4) 改善に向けた意見

発がん物質等危険物質を用いた動物実験について規程等に基づいて今後は実施されたい。

4. 実験動物の飼養保管状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

以前より義務づけられている自己点検報告書（実験動物飼養保管状況報告書）の提出によって飼養保管施設は全学動物実験委員会により把握されており、実験動物管理者の下でおおむね良好に飼養保管が実施されている。一方で「名古屋市立大学における実験動物飼養保管マニュアル」が整備されているが個々の施設に特化したマニュアルとなっていない点、飼養保管に関する記録台帳の一部整備不足を平成27年度の自己点検評価で確認している点などが認められた。よって、自己点検・評価結果は、妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

飼養保管に関するマニュアルと記録台帳の整備は全飼養保管施設において行うように改善されたい。

5. 施設等の維持管理の状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

飼養保管施設の整備や設備はおおむね適切に維持管理されていた。一部の施設等で機器、飼育ラック、ケージ等の耐震対策の必要があり、自己点検評価でもそのことを改善すべき点として把握していた。よって、自己点検・評価結果は、妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

機器、飼育ラック、ケージ等の耐震対策について、機関の協力を仰ぎながら早急に対応し、改善されたい。

6. 教育訓練の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

各部局の動物実験委員会による教育訓練が実施され、平成 27 年度の教育訓練受講者は 476 名である。また、教育訓練の実施記録や受講者の記録等が整理・保存されている。訓練内容も妥当であった。よって、自己点検・評価結果は、妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

特になし。

7. 自己点検・評価、情報公開

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

基本指針に則した自己点検・評価が適正に行われており、名古屋市立大学ホームページに動物実験規程、動物実験に関する自己点検・評価報告書、実験動物飼養数、全学動物実験委員会委員会構成、承認動物実験計画数、教育訓練講習会内容および参加者数等の情報が公開されている。よって、自己点検・評価結果は、妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

特になし。

8. その他

(動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果)

医学研究科附属の実験動物研究教育センターを中心に 3 部局が協力し、情報の収集と共有をより推進し、今後とも名古屋市立大学としてさらなる適切な動物実験の実施を推進されることを期待する。